

企画展示

あいちの海水浴場

期間：平成 18 年 7 月 19 日（水）～平成 18 年 9 月 17 日（日）

場所：愛知県図書館 2 階ロビー（観覧無料）

愛知県には多くの海水浴場があり、毎年大勢の人々で賑わっています。今回は、海水浴場の懐かしい風景を収めた絵はがきや、鳥瞰図、観光案内などの資料を展示し、明治から昭和初期にかけての県内における海水浴場のあゆみを紹介します。

主な展示資料の紹介

『尾張国大野海水浴真景之図』（39×53cm 今江五郎著 1894（明治 27）年 加藤吾一郎発行）

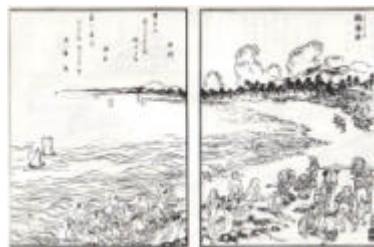
大野町（現常滑市）で海水浴客への案内用に発行されたものと思われる鳥瞰図。中央上部に海水浴の沿革や機能を記し、営業する旅館等業者の一覧も載せる。海水浴場を埋め尽くす人々の姿、大野港に出入りする多くの船、恩波楼や海浜館などの旅館、往来を行き交う人や人力車など、町の様子を詳細に描き、当時の賑わいを生き生きと伝えている。

大野海水浴場は、「世界最古の海水浴場」とも呼ばれる古い歴史を持つ。1881（明治 14）年、愛知県病院長だった後藤新平がこの地を訪れて現地調査を行い、日本最初の海水浴啓蒙書といわれる『海水功用論』を著した。これをきっかけに加温海水浴場など設備も整えられ、旅館も多数建設された。これが愛知県における近代的海水浴のはじめであるが、当初の海水浴は、あくまで病氣治療を主目的としたものであった。



『尾張名所図会』巻六 知多郡「潮湯治」^{しあとうじ}（岡田啓、野口道直著 小田切春江画 1844（天保 15）年 菱屋久兵衛刊）

大野の海岸は、江戸時代にはあらゆる諸病を治すといわれた「潮湯治」で知られていた。江戸時代末に刊行されたこの図会では、人々が海水に身を浸したり、浜で身を横たえたりする姿が描かれている。夏季には各地から大勢の人が集まり、大野は潮湯治を中心とした観光地として大いに賑わったという。



『尾張大野風景』（6 枚、発行年・発行所不明）

大野海水浴場とその周辺の風景を収めた絵はがき。大野海水浴場は、1912（明治 45）年の愛知電気鉄道（現名鉄常滑線）の開通により、名古屋方面からの交通の便がよくなり海水浴客がさらに増加、大正期から戦後にかけて、隣接する新舞子海水浴場（現知多市）とともに、大変な賑わいを見せた。



『新舞子・大野・新須磨海水浴案内』（48p 野田惣太郎編輯発行 1925（大正 14）年）

大正末に大野町で発行された観光案内。大野とその北と南に隣接する新舞子、新須磨の海水浴場の沿革や特徴、他の娯楽や大野付近の名所旧跡について詳しく記している。大野海水浴場については、過去の研究成果を引き、海水の化学的成分や医学的効用、海水浴の適応症・禁忌

症などについても記す。大正末のこの時期になっても、海水浴において潮湯治以来の医療目的の側面が強調されていたことがわかり、興味深い。また巻末に、大野の旅館・店舗などの広告を写真入りで多数掲載しているのも貴重である。

『天下の絶勝南知多遊覧』(18×77cm 吉田初三郎作 1925(大正14)年 観光社発行)

「大正の広重」と呼ばれた吉田初三郎作の鳥瞰図を中心とする観光案内。南知多地方を紹介する観光パンフレットのさきがけとなったもので、以後昭和期にかけ類似の観光案内が多数発行された。

『尾張名勝絵はがき』(9枚 発行年・発行所不明)

南知多の師崎、篠島の写真を中心とする。そのうち「愛知県知多郡篠島海水泳之景」では、女性たちが岩場で海水に浸かる様子を収めている。まるで露天風呂にでも入っているかのようにであり、現在の海水浴のイメージとの違いに驚かされる。海水浴がまだ「潮湯治」の色彩を強く残していた古い時期のものと推測される。

篠島は、東海の松島と呼ばれる景勝地で、絵はがきも多数発行されており、今回も数組の絵はがきを展示する。



『尾張内海風景絵葉書』(9枚 発行年不明 内海商産組合発行)

現在、愛知県を代表する海水浴場である内海海水浴場。この絵はがきは、明治末から大正初期、海水浴場としての内海がまだあまり注目されていない時期の写真と思われる、今回展示する当館所蔵の内海の絵はがきの中でも、最も古いものと推測される。



『御土産 眺望第一海水浴旅館 東浜館』(5枚 昭和初期 東浜館発行)

内海の旅館の一つの東浜館の発行。旅館、海水浴場の写真とともに、1932(昭和7)年内海の西に開設され、新たな観光資源として注目されたサンドスキー場の写真を収めている。



『海水浴御みやげ絵はがき 三河大浜港御料理旅館海月』(7枚 発行年不明 海月発行)

現在の碧南市の海岸にもかつては多くの海水浴場があった。三河鉄道(現名鉄三河線)の開通した1914(大正3)年に新須磨海水浴場が開設されて以後、次々と海水浴場が開かれ、戦後にかけて大いに賑わった。しかし、戦後の2度の台風で大きな被害を受け、昭和30年代にその歴史を閉じた。その後一帯は埋め立てられて、一大工業地帯に変貌している。

この絵はがきは当地を代表する旅館だった海月が発行したもので、納涼台などの施設も持つ大きな旅館だったことがうかがえる。



以上の資料を始め、絵はがき約100枚、鳥瞰図や観光案内を約10点展示します。